

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会

阿寒地域部会（第3回）

議事概要

1. 日 時：平成28年11月22日（火）10：00～12：00
2. 場 所：阿寒湖まりむ館 多目的ホール
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議 事

■開会

○環境省釧路自然環境事務所 安田 直人 統括自然保護企画官 挨拶

■議題

（1）阿寒国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2020(案)について

○環境省から参考資料に基づき、スケジュールの説明。

○環境省から資料1に基づき説明。

○意見等の概要

【北海道観光振興機構】

- ・6Pの取組方針について、修正意見ではなく参考意見として申し上げたい。他の計画等でもよく出てくる指標は「満足度」「再来訪意向」。また、京都では「紹介意向」を最初に掲げている。自分の満足を他の人に伝えたいと思ってもらうことが大事。これからは、同じ人が繰り返し来るのも大事だが、他の人に伝えてもらうことが大事になるのでは。
- ・また、想定外は感動につながる。例えば、マリモは想定内かもしれないが、フロストフラワーは想定外かも知れない。このエリアがこうした取組のお手本になればと思う。

【環境省】

- ・そうした点も検討していければと思う。

【阿寒湖温泉地区景観協議会】

- ・10Pの1）阿寒国立公園における重点事項の③に関して、すぐに限界がくると思うのは空き店舗対策である。例えば、長く空き店舗になったら所有者は何か対策を講じなければならないなどの条例等整備が必要ではないか。

【環境省】

- ・空き店舗の撤去などは難しい問題と認識している。そのような現状も踏まえ、14Pでは、まずは改善に向けた検討を進めるという意図で記載をしている。

【足寄町】

- ・当町としてはオンネトーについて、関係機関とも協議しながら検討を進めたいと考えており、29年度はこの課題について検討委員会を立ち上げて、整備水準なども含めて検討していきたいと考えている。
- ・7P、ステップアッププログラムについて進捗状況等を定期的に把握し、必要に応じて見直しを行うとされているが、実際にはどのようにやっていくのか。例えば、検討の結果実施が難しいとなったり、代わりに別の取組をしたいとなった場合には具体的にどのように計画を変更していくのか。

【環境省】

- ・ステップアッププログラムの見直し方法について、今の時点で確たるものはない。プログラム策定後も地域協議会は継続していくので、協議会において各取組の進捗などを確認しつつ、必要に応じて内容を見直すなど協議会での議論に基づき柔軟に対応したい。

【阿寒観光協会まちづくり推進機構】

- ・10Pに関して、阿寒湖を訪れるインバウンドのうちいわゆる欧米系の方は、自然の中で体を動かすガッツのある人が多い。しかし、ルートの説明するにしても安全面などで伝えにくいところもある。我々が自信をもって説明できるように、ルート中の安全面での標識等の設置を充実してもらえればありがたい。
- ・地元の人達は、トレイルランニング等の大会を開きたいと頑張っているが、安全面での問題などもあり2回流れている。ちょっとした大会をまずは開き、2泊3泊出来るようなルート設定につなげていければと思っている。

【環境省】

- ・ロングトレイルについては、13Pにあるように、まずはこういったルート設定が出来るか等について検討を進めることが大事である。

【前田一步園財団】

- ・P10の1)阿寒国立公園における重点事項と、P13のビューポイント(阿寒湖)において実施する事項について、整合性を取るよう記載内容の順番を入れ替えた方が良いのではないか。
- ・当財団には「森の案内人」というガイドがいる。ガイドとの意見交換の中で出てきた意見をお伝えしたい。
- ・ユニバーサルデザインに関しては、ガイドの方々からすると、障がいをお持ちの方々に具体的にどう案内したらよいかが一番の課題である。具体の部分はこれから地域で取

り組むことになると思うが、これにきちんと対応できれば需要としてはあり得るとの意見があった。

- ・施設整備に関しては、白湯山など、一般の人が自由に利用できる場所は引き続きしっかりとした整備が必要である。そういったところに行った人がもうちょっと深くいきたい時にガイドにお願いするといった流れになればとの意見があった。
- ・インバウンド対応が大きなテーマになっているが、ガイドの人も、外国語含めていろいろな研修、研鑽を詰める場が必要になってくるのではないかととの意見があった。
- ・ガイドがお客様を案内したときに把握した、「倒木があったので時間がかかる」といったタイムリーな情報を、他のガイドと共有できる仕組みがあっても良いのではないかととの意見があった。
- ・当財団としてはステップアッププログラムに基づいて、成果につながるように皆さんと取り組んでいきたいと考えている。

【環境省】

- ・ユニバーサルデザイン、インバウンドに関しての具体的な取組は 14P に記載している。全体構想を踏まえ、具体的なプログラムやガイドの連携など、将来的にガイドツアーを実施していくための方策を検討していければと考えている。そこで障がいをお持ちの方々への対応なども検討してもらえればと思う。
- ・施設整備については、例えば木道など誰にでも行ってみたいところはきちんと整備をする。しかしそこから奥になるとバリアフリー対応が難しいところもある。そのあたりの整備水準などは地元の方の意見が重要となるので、ご意見を伺いながら進めていきたい。

【自然公園財団阿寒湖支部】

- ・14Pのd) 利用料等の公園管理への活用のところで、当財団の取組を掲載していただいている。当財団としては、駐車場やキャンプ場などの管理、しっかりとした塗装などもしていきたいと考えている。
- ・可能であれば何かしらの助成事業を活用して、湖岸にフットライトなどを付けて夜の彩りなど出していきたいと思っている。
- ・ガイド養成、新しいツアープログラムの開発などは一緒にやらせていただきたい。自分もいつまでも先頭ではできないので、いろいろな方に協力をお願いしたい。

【北海道開発局釧路開発建設部】

- ・いわゆるB/C（費用対効果）は必ず問われる部分であるが、具体的に何かあるか教えて欲しい。
- ・20Pに効果検証について記載があるが、B/Cを考えると来訪者数だけではなく消費額、

更には経済波及効果が効果検証には重要ではないかと思うが、どのようにお考えか。

【環境省】

- ・ B/Cについては、まずは各実施主体できちんと整理をしたうえで進めることが必要と考えている。それらを集めてステップアッププログラム全体としてどうだったかについては、また皆さんと議論していく必要がある。
- ・ 消費額に関しては、国全体として8兆円という目標がある。しかしながら、現時点において国立公園で消費額をどうしていくといった目標はないため、本プログラムの目標としては定性的な表現に留まっている。地域で推計している消費額のデータなどがあれば、まずはそのようなデータを収集して議論を始めていくというのがよいのではないかと。

【北海道経済産業局】

- ・ 10P、インバウンドを意識した書きぶりについては施設整備（ハード）が中心となっている。ソフト・サービスの部分も同様に位置づけて検討しているのではないかと。
- ・ 消費行動を向上させるための取組について、商工事業者が中心となって取り組むことも盛り込んだ方がよいのではないかと。具体的な取組によっては経済産業局として応援できるので、そうした視点も必要と感じた。

【環境省】

- ・ 10P、④で（インバウンド対応）となっているが、インバウンド対応については全てに関わるため、④の（インバウンド対応）は削除したい。
- ・ 14P、ウ）の「インバウンド対応のための・・・」は削除したい。表現については検討させていただきたい。

【根釧西部森林管理署】

- ・ ステップアッププログラムについては、時間のなかでよくまとまったという印象である。我々も7万haの国有林を管理する立場として、できるだけ協力していきたい。
- ・ 自然により深く入っていくものに関しては、いろいろお話ししながら対応していきたい。
- ・ 障がいをお持ちの方々の利用に関する参考情報だが、以前の取組で視覚障がい者に好評だったのが、野鳥の声を集音器で聴くものだった。

【釧路運輸支局】

- ・ 8～9Pの二次交通について、我々の持っているノウハウも活用して一緒に考えていきたいと思っている。
- ・ なお、ここに記載のある二次交通に関する2ヶ所の記載は、いずれも空港からのアクセスを念頭にしていると思われるが、内容に何か違いはあるのか。

【環境省】

- ・ 8 Pの記載については、いわゆる広域的な取組について記載している。具体的には3つの空港と新千歳からのアクセスであり、全体を網羅するような内容である。
- ・ 一方9 Pについては、地元からの具体的提案に基づき記載しており、どちらかと言えば各論的な内容である。8 Pの取組を進める中での一つの例示的なものとも言えるかと思うが、具体的には阿寒国立公園広域観光協議会と詰める必要があるので、もし同協議会メンバーから何かあればご意見いただきたい。いずれにせよ、この2つの表現はご意見を聞きながら工夫したいと思う。

【釧路市】

- ・ 要望として申し上げたい。国立公園のイメージアップのためには、しつらえなど受け入れ態勢整備が必要と考えている。5 Pに「廃屋のような利用者に負の印象・・・」といった記載があるが、川湯では廃屋が問題になっていると思う。この問題は国立公園のトータルなイメージアップのために全体としての対応が必要な問題だと捉えているので、阿寒部会からもこうした意見があったと伝えていただき、摩周部会で議論していただければと思う。

【環境省】

- ・ 川湯の廃屋については大きな問題と捉えており、環境省としても地元とともに何ができるかを考えていきたい。それぞれの立場から何ができるか検討していくことが重要である。

【前田一步園財団】

- ・ 13~14 Pのところ、ツアープログラムと人材育成など、阿寒の特長が出る場所として厚く記載して頂いたと思う。今後、既存のものに新たなものを加えてラインナップを増やしたいと考えているが、そこで一番大事なのはマーケティングだと思う。商品をどのような人にお買い上げいただくのか、誰に興味を持ってもらえるのか、そこが大事だと思う。
- ・ このステップアッププログラムは千載一遇のチャンスだと思う。今までは各主体で活動していたが、今後は、阿寒全体でどんな商品ラインナップがあり、お子様向けを増やしていくのか、ディープな層向けを開発していくのかといったマーケティング戦略が重要だと思う。利用者に対して、異なる事業者が似たような商品を提供して混乱させない方が良いので、関係主体があつまって整理・検討した方が良い。ぜひ 13 Pに記載の全体構想を取りまとめる際には、各主体が持っている商品を棚卸しし、それらを全体構想として構築し、マーケティング戦略として取りまとめればブレがなくなるのではないかと。

【釧路市】

- ・ ステップアッププログラム取りまとめ後は、各取組を進めていくことがテーマとなる。2020年为目标年次となると、実質3年程度で進めていく必要がある。これは、極めて特殊で進め方が難しいものと認識している。
- ・ この難しい取組を進める上では、DMOの皆さんの取組が重要であることから、DMOをはじめとする民間の取組に対する支援施策が重要ではないかと認識している。例えば環境省の交付金は自治体が事業主体でなくてはならず、民間事業者が活用しにくい。ステップアッププログラムに関する取組について柔軟な対応ができないかご検討いただきたい。
- ・ また、環境省だけでは支援しにくい取組も多々ある。例えば、商業部門は経済産業省、交通は国土交通省など様々である。民間事業者が他の省庁の支援も受けやすいような仕組みを検討していただけないか。

【環境省】

- ・ ご意見は本省に伝えたい。環境省関係では、生物多様性に関するものやエコツーリズムに関するものなどは民間事業者が活用可能である。また、各省庁の支援事業については前回資料をお配りしたので、その中で活用できる支援策は活用して欲しい。また、各省庁も他に何かあれば事務局に教えて頂きたい。
- ・ 先ほどお伝えしたとおり、地域協議会は継続していくので、今後も議論する場はある。ステップアッププログラムを取りまとめた後も、引き続き議論していきたい。

(2) その他

※特になし

■閉会

○北海道環境生活部環境局 小林 隆彦 生物多様性保全課 自然公園担当課長 挨拶

以上